

仙台市議会議員(泉区選出)

福田 ようすけ

通信 令和6年2月号



令和5年12月 仙台市議会第4回定例会にて率先した
市長・議員のボーナス(期末手当)増額に反対しました!!

※賛成(自由民主党、公明党市議団、市民フォーラム、立憲民主党仙台)

反対(仙台維新、せんだい自民・参政の会、共産党市議団)で残念ながら賛成多数で可決

※増額された分の期末手当は「身を切る改革」として能登半島地震の被災地に寄付いたします。



【会派を代表して市長に問いました!!】

物価高騰に賃上げが追いついていない中、国・県の政治家や市の一般職員が期末手当を増額しているから市長・議員も同様にとすることは、本市の市民を見ていないということであり、物価高に苦しむ市民からの理解を得られるものではありません。「身を切って」市民に寄り添うべき。

昨年の議会を振り返って

皆様、昨年は大変お世話になりました。

ちょうど一年前は青葉消防署で24時間勤務、消防車に乗って連日災害対応のため現場に出場する日々でしたが、過酷な状況にいる方々をこれ以上増やさないためにはどうしたらいいのかを考えるようになり、その想いはやがて政治に向けられるようになりました。妻や3人の子ども達と過ごす日々の中で、将来、子ども達にしっかりと世の中を引き継いでいきたい!テレビで流れるニュースに対して「ダメだし」をし、愚痴を言っているだけではない!

そう思い立ち、政治家を志すようになりました。

仙台市消防局を退職してから無職で政治活動をする不安な時期が続きましたが、皆様からの力強いご支援を頂戴いたしまして、令和5年8月28日から市議会議員として仕事をさせていただくことになりました。任期が始まり、新会派「仙台維新」を立ち上げ約6か月間、幹事長として会派のかじ取りをしてきましたが、仙台市議会始まって以来、新人だけの交渉会派(5人以上のグループ)ができたことが無かったようで、私も同僚議員も市役所の職員もバタバタの毎日です。

他のグループの先輩議員の皆さんにも温かく迎えていただき、議会のことを教えてくださいましたが、議場に足を踏み入れるとそこは緊張感あふれる別世界。迫力のある質問で非常に勉強になります。

しかし、私も市民の皆様から票をいただき、議会に送り出していただいた立場です。皆様の期待に応えられるよう、早く先輩議員に追いつき、追い越していきたい。自分の考えを市長にぶつけ、どういう返答が返ってくるのか、そこからどう返すのか。自分の考えの根拠はしっかりしているのか。本当に市民に寄り添った内容なのか。日々、勉強しています。

引き続き、ご指導、ご鞭撻いただきますようよろしくお願い申し上げます。

<その他の質問>

質疑【嫌がらせを行う中国からのパンダはいらない!】

(福田)パンダはかわいいです。しかしALPS処理水の放水に関して、中国は日本産の水産物の輸入を全面的に停止し、日本全国の水産業者が方針転換を余儀なくされております。また、中国国営メディアによる放出反対のキャンペーンなどを打ち出し、政府関係機関のみならず様々なところへの嫌がらせの電話がかかってくるなど、国による日本への批判を繰り返す、そういった国に対して、今パンダの貸与をお願いするのは理解に苦しみます。中国との関係がよくない中、よりによって東北地方唯一の政令指定都市である仙台市が頭を下げてパンダ貸与をお願いして、積極的に借りをつくるということが、市民の理解が得られるのでしょうか。ここ数年で最も日中関係は冷え切っていると思われる今ではない。

➡答弁(建設局長)導入に際しては、日中両国間の友好関係と相互理解が前提となると考えており、今後の両国間の動静を十分に踏まえながら、適切に取り組んでまいります。

質疑【敬老乗車証制度の見直しは様々な方向からアイデアを絞るべき】

(福田)提示された案(10%負担から25%負担への変更)ですと、敬老乗車証の事業費が10年で30億円程度削減できるということですが、この削減された費用、単に制度維持に使われるだけなのでしょうか。例えば、山形市は、免許返納された70歳以上の方は自己負担額0円でバス定期券がもらえる、そういった制度を取り入れております。御高齢の方々の健康維持はもとより、交通安全にも寄与する事業となっており、予算の投入に値するものになるのではないのでしょうか。

➡答弁(健康福祉局長)現行制度は利用者の方々に定着しており、今回の見直しに当たって、社会福祉審議会老人福祉専門分科会においても現行制度の大枠は維持すべきとの御意見をいただいております。こうしたことから、制度の持続性確保に必要となる利用者負担割合の見直しを行うこととしたものでございます。今後、高齢者を取り巻く環境の変化やICT技術の進展なども注視しながら、新たな仕組みの必要性や可能性を探ってまいります。

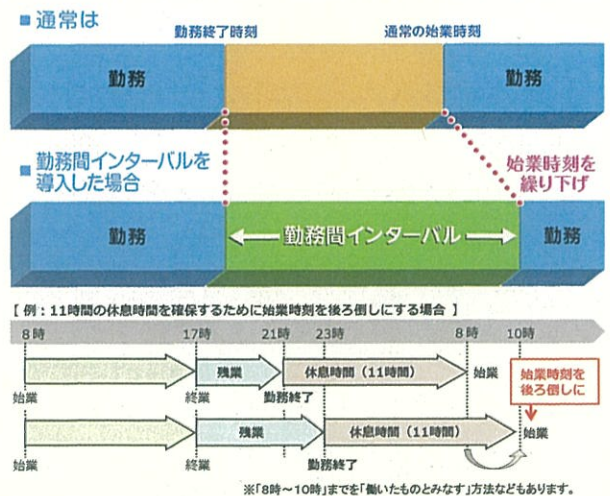
質疑【市職員の勤務間インターバル制度の導入】

(福田)市職員の勤務間インターバル制度について福岡市役所の担当者にお話をお聞きいたしました。働き方改革を市職員から率先して行うことで、市内の一般企業に対しても改革を進めていくことになり、企業のウェルビーイング推進にもなる取組ということでした。仙台市はこのような制度の検討をされないのでしょうか、伺います。

➡答弁(総務局長)今後、国や他都市の事例を参考としつつ、本市におけるインターバル確保の状況や各所属の業務実態等を基に課題の分析等を行いまして、インターバルの確保が図られるよう引き続き検討してまいりたいと存じます。

※企業のウェルビーイング…従業員が身体的、精神的、社会的に満たされるように組織の環境を整えていくこと

「勤務間インターバル」制度を導入した場合、例えば下図のような働き方が考えられます。



福田ようすけ プロフィール

昭和55年11月5生まれ(43歳)。小学生3児の父。秋田県大曲市(現大仙市)出身。茨城大学教育学部(教員免許取得)。不動産会社で勤務(営業職、宅地建物取引士)、仙台市消防局で消防士として約15年勤務し退職した後、令和5年7月仙台市議会議員選挙で市民の皆様からの負託をいただき初当選。現 北中山小学校PTA会長。

ホームページ

